

天保七丙申年

日記

從十月

十一月迄

十月朔日

一 式日御禮無滞相濟申候事、
 一 御領分村々検見昨日迄三相濟申候、例之通、
 今日相休、明日方御勘定三取掛申候積之事、
 一 下桜井村伴右衛門病死お悔み
 一 下桜井村伴右衛門儀此程病死致候二付、為悔
 小平金十二御中間相添音物為持差遣申候事、
 一 江戸表へ御用書差下し
 一 明日江戸表江下仁田繼之御用書差下候二付、
 封いたし市川一作江相渡置申候事、

十月朔日 天氣

式日御禮

一 式日御禮無滞相濟申候事、

檢見終了につき一日休日

一 御領分村々検見昨日迄三相濟申候、例之通、

今日相休、明日方御勘定三取掛申候積之事、

下桜井村伴右衛門病死お悔み

一 下桜井村伴右衛門儀此程病死致候二付、為悔

小平金十二御中間相添音物為持差遣申候事、

江戸表へ御用書差下し

一 明日江戸表江下仁田繼之御用書差下候二付、

封いたし市川一作江相渡置申候事、

一 田野口村検見終了御禮
の御禮罷出申候事、

十月二日 天氣

一 湯原村年貢格外引方願
為檢見廻村致候御禮申達候間承届申候事、
一 田野口村年貢格外引方願
田野口村名主罷出申聞候者、當作方田畑共
存込方格外三取劣候三付、小前之ものを百姓代
を以格外三御憐愍を以御引方被下置度、殊更
畑多之儀畑方御引方之処も偏三御憐愍奉願度
之旨申出候趣申達候間、承置申候段及挨拶
申候事、

一 湯原村年貢格外引方願
湯原村之儀も郷宿丸太夫右同断願出申候間、
是亦右之通及挨拶申候事、
一 三分村名主弥右衛門婚姻取り持ちについて願
三分村願人名主弥右衛門左之通之願面差出候間
承届申候事、

一 此度大原左近様。當郡小宮山村掃部娘
私娘三貫請、同郡同御代官所下畑村権助
女房三遣し申度候間此段奉願上候、右願之通リ
被仰付被下置候ハ、難有仕合三奉存候、以上、
三分村願人

田野口村検見終了御禮

一 田野口村検見昨日迄三相濟候三付、村役人一同
為御禮罷出申候事、

十月二日 天氣

領分村々検見廻村御禮

一 御領分村々名主三年寄老人ツ、差添罷出、
為檢見廻村致候御禮申達候間承届申候事、

田野口村年貢格外引方願

田野口村名主罷出申聞候者、當作方田畑共
存込方格外三取劣候三付、小前之ものを百姓代
を以格外三御憐愍を以御引方被下置度、殊更
畑多之儀畑方御引方之処も偏三御憐愍奉願度
之旨申出候趣申達候間、承置申候段及挨拶
申候事、

湯原村年貢格外引方願

一 湯原村之儀も郷宿丸太夫右同断願出申候間、
是亦右之通及挨拶申候事、

三分村名主弥右衛門婚姻取り持ちについて願

三分村願人名主弥右衛門左之通之願面差出候間
承届申候事、

乍恐書付を以奉願上候

。御代官所

一 此度大原左近様。當郡小宮山村掃部娘

私娘三貫請、同郡同御代官所下畑村権助

女房三遣し申度候間此段奉願上候、右願之通リ
被仰付被下置候ハ、難有仕合三奉存候、以上、

三分村願人

天保七丙申年十月二日

田野口

津波訓極

右弥右衛門奉願上候通相違無御座候間、願之通被仰付被下置候様奉願上候、以上、

十月二日

年寄 茂左衛門

一湯原村百姓庄兵衛盜難届

十月二日

湯原村百姓庄兵衛盜難届

一湯原村方差出候注進左之通、

乍恐書付を以御注進奉申上候

正心書付

一黒羽二重綿入

壱ッ

一花色絹綿入

壱ッ

一絹小紋綿入

壱ッ

一ふとり小紋綿入

壱ッ

一上田縞綿入

壱ッ

一絹小紋綿入

壱ッ

一絹小紋拾羽織

壱ッ

名主

弥右衛門 印

年寄

茂左衛門 印

壱ッ

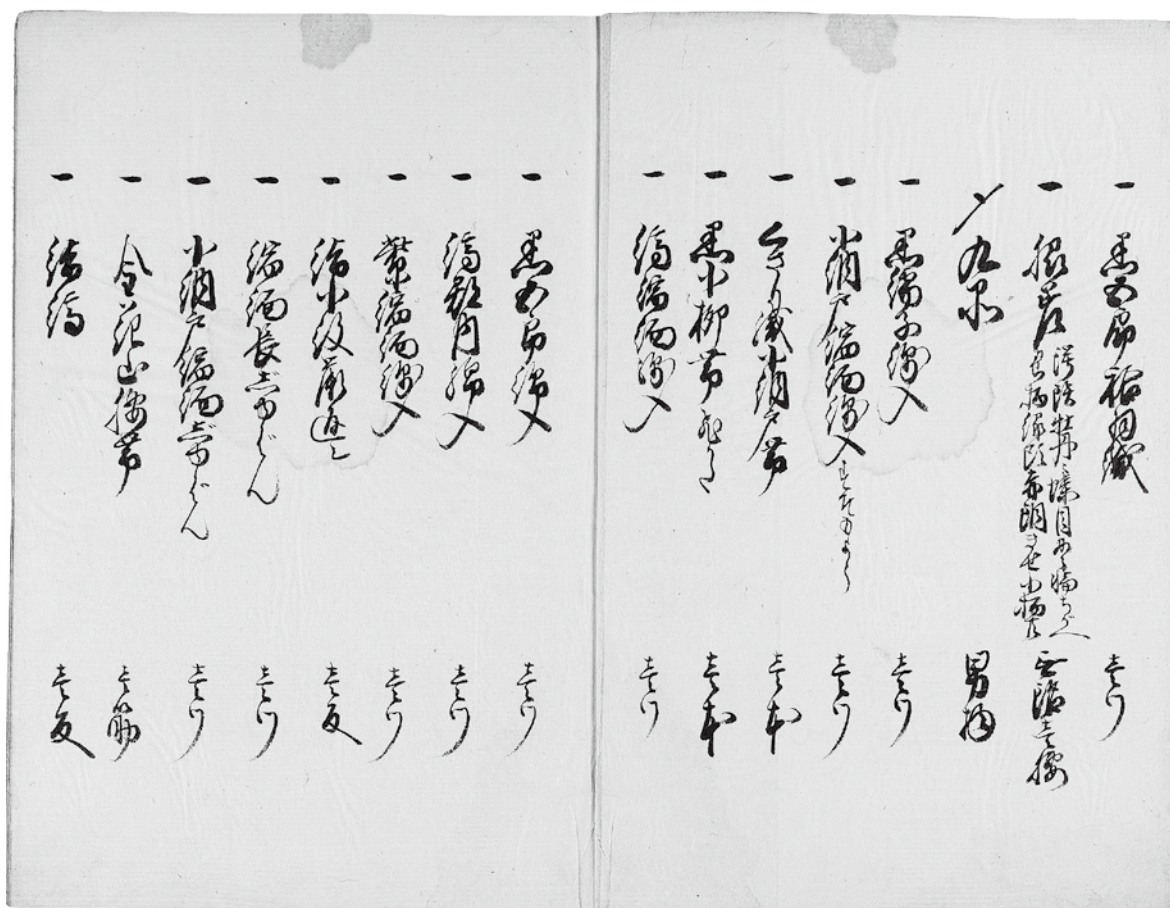
壱ッ

壱ッ

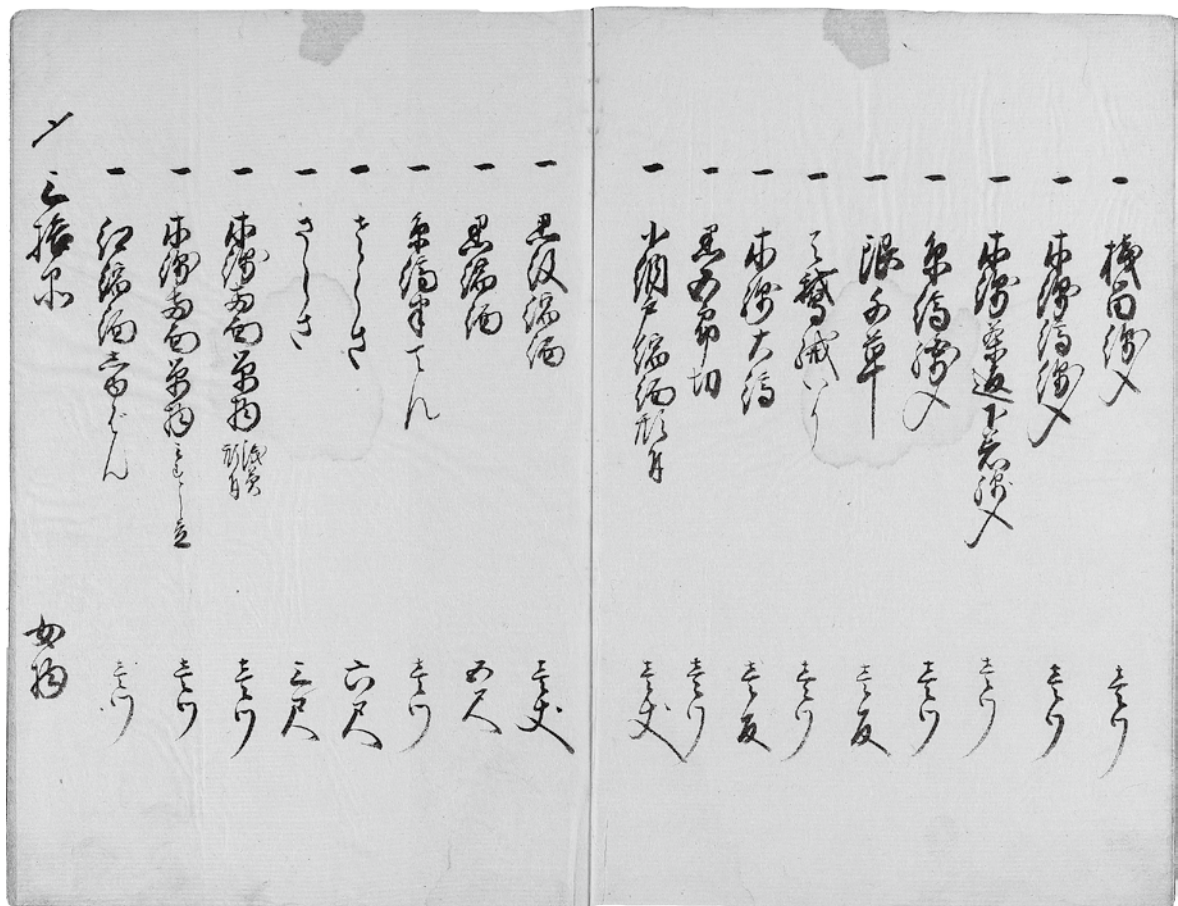
壱ッ

壱ッ

壱ッ



- 一 黒五郎 袴羽織 袴
- 一 脇差 鐔鉄牡丹・蝶目貫輪ちがへ 無銘 袴腰
- 一 九品 卷柄縁頭赤銅させ小柄共 男物
- 一 黒繻子 綿入 袴
- 一 小納戸 縮緬綿入 すそもよう 袴
- 一 くさり織 小納戸帯 袴本
- 一 黒小柳帯 ひかた 袴本
- 一 縮緬綿入 袴
- 一 黒五郎 綿入 袴
- 一 縞郡内 綿入 袴
- 一 紫縮緬 綿入 袴
- 一 絹小紋 鼠返 袴
- 一 縮緬長じゆばん 袴
- 一 小納戸 縮緬じゆばん 袴
- 一 金花山 腰帶 袴
- 一 絹縞 袴反



一 棧留綿入	壹ッ
一 木綿縞綿入	壹ッ
一 木綿茶返下着綿入	壹ッ
一 糸縞綿入	壹ッ
一 銀千草	壹反
一 天鵲絨いり	壹ッ
一 木綿大縞	壹反
一 黒五郎切	壹ッ
一 小納戸縮緬形付	壹丈
一 黒紋縮緬	壹丈
一 糸縞半てん	五尺
一 さらさ	壹ッ
一 さらさ	六尺
一 木綿両面単物 <small>浅黄 形付</small>	三 尺
一 木綿両面単物	壹ッ
一 紅縮緬しゅばん	壹ッ
一 三拾品	壹ッ
女物	壹ッ

南村山宮様御座候方先月廿七日夜中
土蔵戸前如何致候哉押明盜賊這入、前書之品救
被盜取候間、追而手掛り御座候ハ、其節御吟味
奉願上候、依之早速御注進奉申上候、以上、
湯原村

天保七丙申年十月二日

湯原村

年寄 六右衛門 印
信三郎 印
同 七郎右衛門 印
同 權之丞 印
同 彦左衛門 印
同 与市 印
同 市郎右衛門 印
同助役 鐵藏 印

田野口

御役所様

右之通之注進申出候間及面談承届、追而手掛り
有之候ハ、吟味可申出旨申渡し相返ス、
欠落人上小田切村出足輕鷹野代重日限尋
一 上小田切村出御奉公人御組欠落人鷹野代重儀、
今日迄之日限を以尋方申付置候處、今以
行衛相知不申候段届申出候間、猶亦是迄之

當村御百姓庄兵衛義、先月廿七日夜中

土蔵戸前如何致候哉押明盜賊這入、前書之品救
被盜取候間、追而手掛り御座候ハ、其節御吟味
奉願上候、依之早速御注進奉申上候、以上、
湯原村

天保七丙申年十月二日

湯原村
名主

田野口

御役所様

右之通之注進申出候間及面談承届、追而手掛り
有之候ハ、吟味可申出旨申渡し相返ス、
欠落人上小田切村出足輕鷹野代重日限尋
一 上小田切村出御奉公人御組欠落人鷹野代重儀、
今日迄之日限を以尋方申付置候處、今以
行衛相知不申候段届申出候間、猶亦是迄之

年寄 六右衛門 印
信三郎 印
同 七郎右衛門 印
同 權之丞 印
同 彦左衛門 印
同 与市 印
同 市郎右衛門 印
同助役 鐵藏 印

人救を以相尋、十一月廿二日、有無申聞候様申聞候事、

入澤村三条欠落人小太郎歸住願
剪紙差出し申候事、

蓬瀛院様御十三回忌當表修行通達
蓬瀛院様御十三回忌當月三日夕より
四日朝迄御年回御相當ニ付、於江戸表も御法事
御修行被遊候間、於當表も蕃松院ニおゐて
御法事御修行可致旨被仰下候ニ付、割元中條武左衛門
召呼同寺江其段可申通段申付候事、

三州陣屋より御用書近領百姓騷動發起
一夜三州御陣屋方御中間飛脚御出役田代
為右衛門殿江之御用書持參致候、尤三州御領分
内方騷立候儀^三無之由ニ候得共、御近領之内より
百姓騷動發起致し諸家様方之警固等も
夥敷出候趣、且御領内をも通り候儀ニ付夫々警固
手當有之候由、然ル処多平太儀御勝手御用之
之儀ニ付此節頃當表出役可致之処、右始末
故御人少之儀ニ付、早速發足も相成兼申候趣申
來候由之事、

入夜三州御陣屋方御中間飛脚御出役田代
為右衛門殿江之御用書持參致候、尤三州御領分
内方騷立候儀^三無之由ニ候得共、御近領之内より
百姓騷動發起致し諸家様方之警固等も
夥敷出候趣、且御領内をも通り候儀ニ付夫々警固
手當有之候由、然ル処多平太儀御勝手御用之
之儀ニ付此節頃當表出役可致之処、右始末
故御人少之儀ニ付、早速發足も相成兼申候趣申
來候由之事、

[illegible]

和尙も重御歎被申上、且又右
御先代様御年回御相當^三而不成一と通御時
節、格外之御憐愍を以願書御取上々、江戸表
御伺之上歸住被仰付候段被仰渡、重々
難有仕合^三奉存候、然ル上^者弥以心底相改
御條目大切^三相守、御百姓実躰^三相續
可仕旨被仰渡奉畏候、為其御請印形
奉差上候、以上、

天保七丙申年十月三日

入澤村之内
三条
小太郎 印

田野口
津波新

右小太郎今日被召出被仰渡之趣私共一同
罷出承知仕難有仕合^三奉存候、為其奥書印形
差上申候、以上、

申十月三日

右村
名主
与左衛門 印
年寄
弥左衛門 印
同
平五右衛門 印
同
又兵衛 印
又三階 印

和尙も重御歎被申上、且又右

御先代様御年回御相當^三而不成一と通御時
節、格外之御憐愍を以願書御取上々、江戸表
御伺之上歸住被仰付候段被仰渡、重々
難有仕合^三奉存候、然ル上^者弥以心底相改
御條目大切^三相守、御百姓実躰^三相續
可仕旨被仰渡奉畏候、為其御請印形
奉差上候、以上、

天保七丙申年十月三日

田野口

御役所様

右小太郎今日被召出被仰渡之趣私共一同
罷出承知仕難有仕合^三奉存候、為其奥書印形
差上申候、以上、

申十月三日

右村
名主
与左衛門 印
年寄
弥左衛門 印
同
平五右衛門 印
同
又兵衛 印
又三階 印

右之通請書取之申候、尤御免御禮之儀時節柄
蓬瀛院様御法事於蕃松院にて執行
有之候三付、御茶湯料三百疋池田平作ニ為持
差遣し申候事、
田代為右衛門江戸表へ御用書差出し
宿繼之御用書被差出申候事、
三州陣屋への返事
三州御陣屋方田代為右衛門殿江御用書之
御返事御出來三付、飛脚江相渡し明日發足
申渡し候事、

德左衛門 印
権兵衛 印
与右衛門 印
宇左衛門 印
清左衛門 印
彦兵衛 印
孝之助 印
組合惣代 印
又右衛門 印
本郷 印
名主 印
忠助 印

右之通請書取之申候、尤御免御禮之儀時節柄
之儀三付、立歸リニ而承届申候事、
蓬瀛院法事蕃松院にて執行
蓬瀛院様御法事於蕃松院今夕方御執行
有之候三付、御茶湯料三百疋池田平作ニ為持
差遣し申候事、
田代為右衛門江戸表へ御用書差出し
宿繼之御用書被差出申候事、
三州陣屋への返事
三州御陣屋方田代為右衛門殿江御用書之
御返事御出來三付、飛脚江相渡し明日發足
申渡し候事、

十月四日 天氣屋頃方曇り小雨

下手十三か村田畑格別之引方願

一昨夕鄉宿瀬左衛門罷出内聞申達候者、今日

下手拾三ヶ村名主三年寄惣代壹人・百姓代

壹人罷出申聞候者、當田方之儀銘々存込者

格別三取実相劣候二付、田畑共格外之御引方

不被下置候^{而者}露命難計問、歎願書差出度趣

申達候三付承届、書面差出候様申聞ル、尤夜分三

も相成候儀故村々申合而三ヶ村残り居、明朝

面談致し可申段申聞置候處、上桜井村・跡部村・

大澤新田村相残居り、今朝同道致取上ヶ申候、右書

面之写左之通リ、

乍恐以書付御慈悲奉願上候

一當秋違作三付御檢見被成下置難有仕合奉存候、

然ル處當立毛之儀御檢見被成下候節も兼て

希代之凶作^{与者}奉存候得共、御檢見後銘々

手入仕候節初三俵^者堅く可有之^与見込取入候處、

漸壹俵方式俵位之外無之実々奉驚入候、

一
昨夕鄉宿瀬左衛門罷出内聞申達候者、今日
下手拾三ヶ村名主三年寄惣代壹人・百姓代
壹人罷出申聞候者、當田方之儀銘々存込者
格別三取実相劣候二付、田畑共格外之御引方
不被下置候^{而者}露命難計問、歎願書差出度趣
申達候三付承届、書面差出候様申聞ル、尤夜分三
も相成候儀故村々申合而三ヶ村残り居、明朝
面談致し可申段申聞置候處、上桜井村・跡部村・
大澤新田村相残居り、今朝同道致取上ヶ申候、右書
面之写左之通リ、

而後一ヶ村
大澤新田村相残居り、今朝同道致取上ヶ申候、右書
面之写左之通リ、

乍恐以書付御慈悲奉願上候

一
當秋違作三付御檢見被成下置難有仕合奉存候、
然ル處當立毛之儀御檢見被成下候節も兼て
希代之凶作^{与者}奉存候得共、御檢見後銘々
手入仕候節初三俵^者堅く可有之^与見込取入候處、
漸壹俵方式俵位之外無之実々奉驚入候、

右粗摺立見候処、壹升三付米三合位、大体
糴米三御座候間迎も精米三仕候儀者相成
不申、往古方申傳も無之前代未聞之飢饉
三而、銘々耕作仕乍居是程之儀者不奉存、
違作^{与者}、覺悟仕候得共取入候而猶又驚入候、
一体當年之儀者畑作も夏作方秋作迄違作
仕候得共、田方相應も取実仕候ハ、乍難洪も
御上納可仕与奉存候処、田作右之仕合三御座候得
何様仕御上納可仕哉一同心配罷在候肉、敢早
當分方村々夫食三差支候者多く、來夏作

力入と何仕相凌可申哉^{与誠}三途方三暮罷在候、
何卒格別之御慈悲を以右之始末被為分聞召、
田畑共御制外之御引方被下置候様幾重^二も
奉願上候、申上候も奉恐入候得共、去酉年方
當年迄拾貳ヶ年之間貳ヶ年平作二取入、
拾ヶ年^{天保六年}者違作仕、就中去ル巳年大凶作、
去末年又々凶作三而連年引續候故、困窮
弥増村役人立入手當等仕種々三手段仕漸々
相凌、少々困穀等仕候分も融通旁^二而貯穀
一圓無之時節、當作之義^{与者}往古より

傳三も不及承惡年三而、當夏麦作方
 秋作迄田畑共右奉申上候飢饉三御座候間、
 銘々夫食無御座一同取續難仕、何卒格別之
 御憐愍不被下置候^{而者}逆も御百姓相續^者勿論、
 露命相つなき候儀^者難相成、何分三も
 一同露命相つなき御百姓相續仕候様、御仁恵
 之程偏三奉願上候、以上、

天保七丙申年十月

原村
 名主 太兵衛 印
 年寄惣代 五兵衛 印
 百姓代 重太郎 印
 鍛冶屋村
 名主 六左衛門 印
 年寄惣代 治平 印
 百姓代 彦右衛門 印
 取出町村
 名主 市右衛門 印
 年寄惣代 五兵衛 印
 百姓代 善左衛門 印
 三塚村
 名主 七兵衛 印

原村
 名主 太兵衛 印
 年寄惣代 五兵衛 印
 百姓代 重太郎 印
 鍛冶屋村
 名主 六左衛門 印
 年寄惣代 治平 印
 百姓代 彦右衛門 印
 取出町村
 名主 市右衛門 印
 年寄惣代 五兵衛 印
 百姓代 善左衛門 印
 三塚村
 名主 七兵衛 印

申傳三も不及承惡年三而、當夏麦作方
 秋作迄田畑共右奉申上候飢饉三御座候間、
 銘々夫食無御座一同取續難仕、何卒格別之
 御憐愍不被下置候^{而者}逆も御百姓相續^者勿論、
 露命相つなき候儀^者難相成、何分三も
 一同露命相つなき御百姓相續仕候様、御仁恵
 之程偏三奉願上候、以上、

天保七丙申年十月

原村
 名主 太兵衛 印
 年寄惣代 五兵衛 印
 百姓代 重太郎 印
 鍛冶屋村
 名主 六左衛門 印
 年寄惣代 治平 印
 百姓代 彦右衛門 印
 取出町村
 名主 市右衛門 印
 年寄惣代 五兵衛 印
 百姓代 善左衛門 印
 三塚村
 名主 七兵衛 印



年寄惣代	勘三郎	印	百姓代	代太郎	印	跡部村	名主	安重	印	年寄惣代	新左衛門	印	百姓代	嘉吉	印	上桜井村	名主	恒右衛門	印	年寄惣代	庄兵衛	印	百姓代	半右衛門	印	平井村	名主	五郎助	印	年寄惣代	定八	印	百姓代	宇源次	印	沓澤村	名主	兵左衛門	印	年寄惣代	勘藏	印	百姓代	吉左衛門	印	糠尾村	名主	庄左衛門	印	年寄惣代
------	-----	---	-----	-----	---	-----	----	----	---	------	------	---	-----	----	---	------	----	------	---	------	-----	---	-----	------	---	-----	----	-----	---	------	----	---	-----	-----	---	-----	----	------	---	------	----	---	-----	------	---	-----	----	------	---	------

田野口
御役所様

大澤村
名主
武左衛門
年寄惣代
市左衛門
百姓代
大澤新田村
名主
彦右衛門
年寄惣代
嘉平太
百姓代
忠右衛門

中村
名主
廣右衛門
年寄惣代
猶右衛門
百姓代
豐助
下村
名主
儀右衛門
年寄惣代
勘左衛門
百姓代
半左衛門

田野口
御役所様

甚藏印
百姓代
七左衛門印
中村
名主
廣右衛門印
年寄惣代
猶右衛門印
百姓代
豐助印
下村
名主
儀右衛門印
年寄惣代
勘左衛門印
百姓代
半左衛門印
大澤村
名主
武左衛門印
年寄惣代
市左衛門印
百姓代
猶右衛門印
大澤新田村
名主
彦右衛門印
年寄惣代
嘉平太印
百姓代
忠右衛門印

蓬瀛院御中居の沙後行明等之形之形
 萬石院よりあり申代香田代香
 中條武左衛門罷出申候、御香奠金百足
 被成御持参、外二御出役二付例之通金百足
 御香奠被成御備候事、
 右につき陣屋一同自拝
 一右御法事濟之上為自拝麻上下着用致シ
 一同罷越申候事、

上越村役人田代為右衛門へ挨拶
 一三州御陣屋迄輕尻沓足之飛脚先觸差出し
 申候、右三塚村箕輪勘三郎、大澤村市川
 武左衛門義相願候而、右御陣屋迄罷越御拂米之内
 買請、當表為融通建札相願持参致度趣
 二付、御出役江も申上候上左之通取計申候事、

十月五日

十月五日 天氣

一 三塚村箕輪勘三郎・大澤村市川武左衛門
三州表江弥明六日發足三罷越候三付、添状
為請取罷出申候事

十月五日

同日

一 下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代
下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代
下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代

一 下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代
下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代
下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代

十月八日

一 上村不作場書上之内間違いに付剪紙差出す
上村不作場書上之内間違いに付剪紙差出す
上村不作場書上之内間違いに付剪紙差出す

三州陣屋への添状請取

一 三塚村箕輪勘三郎・大澤村市川武左衛門
三州表江弥明六日發足三罷越候三付、添状
為請取罷出申候事、

十月六日 天氣

同日 天氣

下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代

一 下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代
下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代
下小田切村名主儀助・年寄兵左衛門三百姓代

十月八日 天氣昨夜少雪

上村不作場書上げ間違いに付剪紙差出す

一 上村不作場書上之内間違いに付剪紙差出す
上村不作場書上之内間違いに付剪紙差出す
上村不作場書上之内間違いに付剪紙差出す

十月九日

入澤村・平林村・上海瀬村・上村新田村不作場
書上ケ之内間違之儀有之候三付、名主・年寄之内
老人扣帳面持参候様剪紙差出し申候事、

一 當暮御収納金之内百五拾兩之割合を以繰上
納之儀御領分村々江申觸候所、上手村之内追々
罷出申達候者、當月十五日例式納御年貢金
之内兩度御繰上分差引殘金も村々余程

有之、此度御繰上与合候而者金高ニも相成候故、
皆濟納之節迄日延之儀願出候間、一ト通り承置
追而可及沙汰段申聞置候處、當年柄追々難渋之趣
相聞候三付、右差引殘金之方者金高多故、殘金
之儀者皆濟納之節迄相延、此度申觸候百
五拾兩之割合而已相納候様追廻状今日差出シ
申候事、

十月九日 天氣

入澤村外三か村不作場書上げ間違いに付剪紙差出す

一 入澤村・平林村・上海瀬村・上村新田村不作場

書上ケ之内間違之儀有之候三付、名主・年寄之内

老人扣帳面持参候様剪紙差出し申候事、

繰上げ納めの延期通知

一 當暮御収納金之内百五拾兩之割合を以繰上

納之儀御領分村々江申觸候所、上手村之内追々

罷出申達候者、當月十五日例式納御年貢金

之内兩度御繰上分差引殘金も村々余程

有之、此度御繰上与合候而者金高ニも相成候故、

皆濟納之節迄日延之儀願出候間、一ト通り承置

追而可及沙汰段申聞置候處、當年柄追々難渋之趣

相聞候三付、右差引殘金之方者金高多故、殘金

之儀者皆濟納之節迄相延、此度申觸候百

五拾兩之割合而已相納候様追廻状今日差出シ

申候事、

十月十日 天氣

昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参
昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参

覺

有馬滿丸殿母昨夜亥ノ中刻死去之処、

妹半減之忌服請候、依之中老共用人共
平服三而機嫌窺可申聞候事、

一家中徒士目付格以上今明日中寄々用部屋
江罷出機嫌可相伺候事、

右之通向々江可申達候事、

申十月五日

右之通之御書付を以被仰下候ニ付、御領分村々
江も申觸、御出役田代為右衛門殿江

十月十日 天氣

不作場書上扣帳持参

一昨日剪紙差出候村々不作場書上扣帳持参

致候ニ付為取直、且又今日罷出候もの、ミニ而者相分

兼候平林村・上海瀬村・上村新田村之儀ハ、十二日

迄日延相願申候事、

有馬滿丸母死去に付忌服覺

一江戸表方宿繼御用書到來之処、左之通リ

之御書付参リ申候、

覺

有馬滿丸殿母昨夜亥ノ中刻死去之処、

妹半減之忌服請候、依之中老共用人共

平服三而機嫌窺可申聞候事、

一家中徒士目付格以上今明日中寄々用部屋

江罷出機嫌可相伺候事、

一今日方三日鳴物停止、普請者構無之候事、

右之通向々江可申達候事、

申十月五日

右之通之御書付を以被仰下候ニ付、御領分村々

江も申觸、御出役田代為右衛門殿江

伊豫田邦輔儀無據用向二面相願、小諸江屋後方

十月十日 天候

伊豫田邦輔儀無據用向二面相願、小諸江屋後方

伊豫田邦輔儀無據用向二面相願、小諸江屋後方

十月十日 天候

伊豫田邦輔儀無據用向二面相願、小諸江屋後方

伊豫田邦輔儀無據用向二面相願、小諸江屋後方

御機嫌伺申上候事、

十月十一日 天氣

伊豫田邦輔小諸行き

伊豫田邦輔儀無據用向二面相願、小諸江屋後方

田代為右衛門宛江戸表用書到來

江戸表方宿繼之御用書御出役田代為右衛門殿

十月十二日 曇ル屋後天氣

伊豫田邦輔小諸より帰陣

伊豫田邦輔儀昨屋後小諸江罷越申候処、今朝

三州表へ為替金四百兩差下し

三塚村箕輪勘三郎・大澤村市川武左衛門より

先日三州表江出立之砌為替金四百兩相願候間、

下仁田繼三度便を以今日差下候三付、市川一作

小平金十二御中間重藏并御雇中間老入相添

為持差遣し申候事、

一 伊豫田小兵衛出府仰付け
五日頃江戸着之積^三出府被仰付け候事、

一 昨夕刻上海瀬村役人郷宿森泉丸太夫を以
内聞申達候者、村方小前之もの此程真宗寺江打寄
相談之上、百姓代役元江今日願出候者、當違作二付
夫食差遣畑方御上納致候得者、當時右銘々
食物無御座三付拝借相願吳候様、若又拝借願
不相成候ハ、郷借相願度趣申出候処、村内一同右様
願筋致候儀不成一ト通不筋之願方、拝借御願等者
御時節柄之儀不被申上段申断、郷借之儀も
極々難渋之もの而^三有之候ハ、取計方も可有之
候得共、一同右願出候段不筋之趣申断候処、然ル上者
御役所江一同罷出可相願申之、右真宗寺寄合
之場引取候三付、愚昧之もの直も罷出可申哉も
難計候間、御内聞申上候段申聞候間、早速明早朝
右之注進書差出候様申聞相返し申候、今朝
年寄兩人罷出又々郷宿丸太夫を以申達候者、
昨日右被仰聞之趣を以村内一人別招呼相糺
申候処、誠三心得違を以右様之相談願筋致シ
一同申訳無御座間、何卒此上右注進書

一 伊豫田小兵衛出府仰付け
五日頃江戸着之積^三出府被仰付け候事、

伊豫田小兵衛出府仰付け

一 伊豫田小兵衛儀御勝手御用之儀三付、來月
五日頃江戸着之積^三出府被仰付け候事、

上海瀬村小前一同寄合一件

一 昨夕刻上海瀬村役人郷宿森泉丸太夫を以

内聞申達候者、村方小前之もの此程真宗寺江打寄

相談之上、百姓代役元江今日願出候者、當違作二付

夫食差遣畑方御上納致候得者、當時右銘々

食物無御座三付拝借相願吳候様、若又拝借願

不相成候ハ、郷借相願度趣申出候処、村内一同右様

願筋致候儀不成一ト通不筋之願方、拝借御願等者

御時節柄之儀不被申上段申断、郷借之儀も

極々難渋之もの而^三有之候ハ、取計方も可有之

候得共、一同右願出候段不筋之趣申断候処、然ル上者

御役所江一同罷出可相願申之、右真宗寺寄合

之場引取候三付、愚昧之もの直も罷出可申哉も

難計候間、御内聞申上候段申聞候間、早速明早朝

右之注進書差出候様申聞相返し申候、今朝

年寄兩人罷出又々郷宿丸太夫を以申達候者、

昨日右被仰聞之趣を以村内一人別招呼相糺

申候処、誠三心得違を以右様之相談願筋致シ

一同申訳無御座間、何卒此上右注進書

十月十三日

市川作半 金平 忠中 島久 大川
金子 為持 下仁田 江差 遣申候処、昏時無滞
罷歸申候事、
上海瀬村 一件に付市十郎外六人取調べ
昨日剪紙差出申候上海瀬村市十郎・
甚左衛門・忠兵衛・金左衛門・善次・傳次郎・喜惣太
右何れも親類・組合者人ツ、相添、名主・年寄・百姓代
一同罷出候三付夫々者人別相糺申候処、心得違
之旨奉恐入候段申達候、然ル処右もの共之内
市十郎儀者發言人ニも有之哉之様子ニ付、
縄打候而先ツ郷宿迄相下ケ申候、尤一朝一夕之
調ニも不相成候間、右市十郎ニ親類・組合之内
者人、名主・年寄之内ニ而者人相止リ、相残之
もの一同者一ト先歸村申付候事、

市川作半 金平 忠中 島久 大川
金子 為持 下仁田 江差 遣申候処、昏時無滞
罷歸申候事、
上海瀬村 一件に付市十郎外六人取調べ
昨日剪紙差出申候上海瀬村市十郎・
甚左衛門・忠兵衛・金左衛門・善次・傳次郎・喜惣太
右何れも親類・組合者人ツ、相添、名主・年寄・百姓代
一同罷出候三付夫々者人別相糺申候処、心得違
之旨奉恐入候段申達候、然ル処右もの共之内
市十郎儀者發言人ニも有之哉之様子ニ付、
縄打候而先ツ郷宿迄相下ケ申候、尤一朝一夕之
調ニも不相成候間、右市十郎ニ親類・組合之内
者人、名主・年寄之内ニ而者人相止リ、相残之
もの一同者一ト先歸村申付候事、

十月十四日

同日十五日

一 領分村々暮収納金繰上分納入
御領分村々暮出、先日申觸候暮御收納金
之内百五拾兩之割合今日相納申候、尤當日
例年納之内兩度分繰上分差引、殘金とも
一同今日可相納之處、左候^而金高ニも相成
當年柄村々難渋之儀三付、追々御詫願も有之
旁三付追廻狀先日差出、右繰上分^而已相納
申候事、

一 上村新田村柄困窮歎願書差出し

上村新田村より左之通之歎願書差出申候間、
預り置申候事、

一 私共村方之儀天明三卯年大凶作^{并無間}
午年兩年之凶作三付甚困窮仕候故、難渋之
百姓夥鋪罷在候處、追々立潰^レニ相成候、此度

此等書付村柄困窮歎願書

一 領分村々暮出、先日申觸候暮御收納金
之内百五拾兩之割合今日相納申候、尤當日
例年納之内兩度分繰上分差引、殘金とも
一同今日可相納之處、左候^而金高ニも相成
當年柄村々難渋之儀三付、追々御詫願も有之
旁三付追廻狀先日差出、右繰上分^而已相納
申候事、

十月十四日 天氣

同日十五日 天氣

領分村々暮収納金繰上分納入

一 御領分村々暮出、先日申觸候暮御收納金
之内百五拾兩之割合今日相納申候、尤當日
例年納之内兩度分繰上分差引、殘金とも
一同今日可相納之處、左候^而金高ニも相成
當年柄村々難渋之儀三付、追々御詫願も有之
旁三付追廻狀先日差出、右繰上分^而已相納
申候事、

上村新田村柄困窮歎願書差出し

一 上村新田村より左之通之歎願書差出申候間、
預り置申候事、

乍恐以書付村柄困窮奉願上候

一 私共村方之儀天明三卯年大凶作^{并無間}

午年兩年之凶作三付甚困窮仕候故、難渋之
百姓夥鋪罷在候處、追々立潰^レニ相成候、此度

金部事山形古

一
天明三卯年より保元二年凶作迄三潰レ百姓
夥鋪出来致候、右卯年已前村方家救五拾
四、五軒^茂罷在候得共、當時之儀^者式拾四、五軒
相成、其内ニも極難洪之百姓八、九軒程
罷在候、以是村柄難洪至極仕候、又候去^ル未^レ年
より引續當大凶作ニ付、極難洪之もの
夫食差支ニ相成候間、
御役所様江御拝借御願仕候處、當時之内
組合・親類之内ニも融通致候様ニ被仰付、組合・
親類之内ニも少々宛融通仕候、猶又從
御役所様米穀為御改被遊御越、其砌夫食
一向無之者^者帳面ニ仕立御上様江差上候様
被仰付候、右難洪人帳面ニ仕立御願奉申上候處、
厚キ以御慈悲御救米被下置一同難有仕合奉存候、
然ル処當秋田畑取入候處、田方之儀^者御檢見
被成下置候通皆無同様、畑方迄も蕎麦・粟
其外種物無之品粒多有之、少々茂種取

保元親類之内ニも融通致候様江、保元江
親類之内ニも少々宛融通仕候様江又從
御役所様米穀為御改被遊御越、其砌夫食
一向無之者^者帳面ニ仕立御上様江差上候様
被仰付候、右難洪人帳面ニ仕立御願奉申上候處、
厚キ以御慈悲御救米被下置一同難有仕合奉存候、
然ル処當秋田畑取入候處、田方之儀^者御檢見
被成下置候通皆無同様、畑方迄も蕎麦・粟
其外種物無之品粒多有之、少々茂種取

仁皇天皇御宇、應永外田、種田畑共、
一向官有、南無凌急、大物、何卒憐愍、
御慈悲奉願上候。

一、天明三卯年、南無凌急、大物、何卒憐愍、
御慈悲奉願上候、
御座候處、右潰レ百姓所持之荒地等世話仕、
年々弁納仕世柄宜敷御座候得者、何連三成共
御年貢諸役仕候得共、當時之世柄二面著
自分所持之御年貢等、無覺束存罷在候間、
潰レ百姓所持之分何分御勘弁之御慈悲奉
願上候、

御上

前書、通困窮之者夥敷御座候間、御慈悲之
御勘弁奉願上候、此節御時節柄御慈悲願奉申上候者
奉恐入候得共、凌兼候百姓御座候二付、無拠御慈悲奉
願上候、何卒御憐愍を以百姓取續候様御救被成下置
候様此段偏三奉願上候、以上、

天保七丙申年十月

上村新田村
名主
庄右衛門
年寄
七郎右衛門

仕候者大豆計三御座候、外物之種者田畑共二
一向無御座候、當冬凌兼候者夥敷、何卒御憐愍
之御慈悲奉願上候、

一天明三卯年、當時迄潰レ百姓貳拾七軒
御座候處、右潰レ百姓所持之荒地等世話仕、
年々弁納仕世柄宜敷御座候得者、何連三成共
御年貢諸役仕候得共、當時之世柄二面著
自分所持之御年貢等、無覺束存罷在候間、
潰レ百姓所持之分何分御勘弁之御慈悲奉
願上候、

前書之通困窮之者夥敷御座候間、御慈悲之
御勘弁奉願上候、此節御時節柄御慈悲願奉申上候者
奉恐入候得共、凌兼候百姓御座候二付、無拠御慈悲奉
願上候、何卒御憐愍を以百姓取續候様御救被成下置
候様此段偏三奉願上候、以上、

上村新田村
名主
庄右衛門
年寄
七郎右衛門

天保七丙申年十月

田部
市役所様

〃
〃
赤重郎
百姓代
惣兵衛
右連印

一 野澤村穀屋六左衛門買請候米、平林村より
預穀致居候趣御影御陣屋詰被聞込候三付、実否
取調之儀内々申來候三付、右村呼出相糺候處、
左之通之書付差出し申候事、

差上申御請書之事

一 當村方之内、野澤村穀屋六左衛門申者、
預穀致置候者有之趣三付、左様之者御座
候ハ、穀救取調、書面を以可申出趣被仰付
私共篤々取調見候處、六左衛門方預穀仕置候
者村中三老人も無御座候、若此上茂左様
之者有之隱置仕候ハ、早速御注進可奉申上候、
為其御請印形差上申處依而如件、

平林村
天保七丙申年
十月十五日
八郎兵衛 印

田野口

御役所様

平林村の内野澤村穀屋より預穀の者取調べ

一 野澤村穀屋六左衛門買請候米、平林村之者

預穀致居候趣御影御陣屋詰被聞込候三付、実否

取調之儀内々申來候三付、右村呼出相糺候處、

左之通之書付差出し申候事、

差上申御請書之事

一 當村方之内、野澤村穀屋六左衛門申者、

預穀致置候者有之趣三付、左様之者御座

候ハ、穀救取調、書面を以可申出趣被仰付

私共篤々取調見候處、六左衛門方預穀仕置候

者村中三老人も無御座候、若此上茂左様

之者有之隱置仕候ハ、早速御注進可奉申上候、

平林村

天保七丙申年

十月十五日

名主
八郎兵衛 印

同

庄左衛門

同

喜重郎

百姓代

惣兵衛

右連印

田野口
市役所様

多 忠 印
源 藏 印
宇 多 吉 印
九 右 衛 門 印
百姓代
利 左 衛 門 印

一 外廻り夜番之儀例年今夜有之処、少金
之儀三付相止申候事、

十月十六日 曇風吹

一 役所米割付廻状下手村へ差出し
不申付、下手村々而巳申觸候、尤左候而者多々御用米
相減候三付、平年下手村納高者少々ツ、相増
申觸候、且江戸廻米并津出米之儀不申付段も書込
申觸候事、

田野口

御役所様

外廻り夜番休止

一 外廻り夜番之儀例年今夜有之処、少金
之儀三付相止申候事、

十月十六日 曇風吹

役所米割付廻状下手村へ差出し

一 御役所米割付廻状差出申候、尤上手村々者
不申付、下手村々而巳申觸候、尤左候而者多々御用米
相減候三付、平年下手村納高者少々ツ、相増
申觸候、且江戸廻米并津出米之儀不申付段も書込
申觸候事、

年寄 多 忠 印
同 源 藏 印
同 宇 多 吉 印
同 半右衛門 印
同 九右衛門 印
百姓代 権兵衛 印
同 利左衛門 印

一 上海瀨村吟味一件之共儀是迄之始末
後梅致し、菩提寺余地村自成寺^江此上之
吟味願下之儀一向相歎、且亦隣村平林村名主
八郎兵衛・年寄多忠^江も一向御詫願之儀相歎
候旨^二而、今日右自成寺他出^三付代僧下海瀨村
宗真寺和尚^井平林村八郎兵衛・多忠御詫願
として罷出、右寺^三も一向御免之儀被相歎
候得共、不容易もの共之儀故早速取敢も出來兼
候處、達^而詫願被申聞候儀^三付、此上吟味之儀^者
差免可申段及挨拶申候、尤繩打置申候
市重郎義も呼出、其旨申渡手鎖いたし
追^而及沙汰候^追者、親類・組合^江預^ケ置候旨申聞
一同歸村申付候事、

一 同歸村申付候事
市重郎義も呼出、其旨申渡手鎖いたし
追^而及沙汰候^追者、親類・組合^江預^ケ置候旨申聞
一同歸村申付候事、

十月十七日 天氣
昨夜風吹大雨

一 江戸表^江下仁田三度便を以御雜用金九拾兩
差下候^三付、渡邊香吉^三為持御中間八郎相添
今朝差遣し申候事、

上海瀨村一件吟味願下げ、市重郎手鎖親類・組合預け

一 上海瀨村吟味一件之もの共儀是迄之始末
後梅致し、菩提寺余地村自成寺^江此上之

吟味願下之儀一向相歎、且亦隣村平林村名主

八郎兵衛・年寄多忠^江も一向御詫願之儀相歎

候旨^二而、今日右自成寺他出^三付代僧下海瀨村

宗真寺和尚^井平林村八郎兵衛・多忠御詫願

として罷出、右寺^三も一向御免之儀被相歎

候得共、不容易もの共之儀故早速取敢も出來兼

候處、達^而詫願被申聞候儀^三付、此上吟味之儀^者

差免可申段及挨拶申候、尤繩打置申候

市重郎義も呼出、其旨申渡手鎖いたし

追^而及沙汰候^追者、親類・組合^江預^ケ置候旨申聞

一同歸村申付候事、

十月十七日 天氣

昨夜風吹大雨

雜用金江戸表へ差下し

一 江戸表^江下仁田三度便を以御雜用金九拾兩

差下候^三付、渡邊香吉^三為持御中間八郎相添

今朝差遣し申候事、

一 糠尾村の左之通之願書差出候間及面談
預り置、伺之上追而可及沙汰旨申渡候事、

去ル十四年以前欠落人
未年

去ル五年以前欠落人
辰年

右之者共段々御日限を以尋被仰付候二付、
相尋候得共行衛相知レ不申候二付、永尋御願
奉申上置無限相尋申候得共一圓行方
相知れ不申候間、何卒御慈悲ヲ以御帳外
被成下置候様奉願上候、願之通被為仰付被下置
候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上、

糠尾村
御役所様
伊忠太
印

天保七丙申年十月十七日

御役所様

糠尾村
御役所様
伊忠太
印

糠尾村欠落人二人帳外願

一 糠尾村の左之通之願書差出候間及面談
預り置、伺之上追而可及沙汰旨申渡候事、

乍恐以書付奉願上候

去ル十四年以前欠落人
未年

去ル五年以前欠落人
辰年

右之者共段々御日限を以尋被仰付候二付、
相尋候得共行衛相知レ不申候二付、永尋御願
奉申上置無限相尋申候得共一圓行方
相知れ不申候間、何卒御慈悲ヲ以御帳外
被成下置候様奉願上候、願之通被為仰付被下置
候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上、

天保七丙申年十月十七日

御役所様

糠尾村
御役所様
伊忠太
印

右兩人奉願上候通御帳外被為仰付被下
置候ハ、一同難有仕合奉存候、以上、

十月十七日

名主

庄左衛門 印

年寄

美野吉 印

同

弥市郎 印

同

金平 印

同

甚藏 印

同

勇八 印

一 同村方左之注進書差出申候間承届候上、
十二月七日迄當國尋申付候事、

糠尾村欠落人三人注進

一 同村方左之注進書差出申候間承届候上、
十二月七日迄當國尋申付候事、

乍恐以書付御注進奉申上候

一 當村百姓捨藏儀當九月七日家出仕歸宅

不仕候三付、家内取調見候処欠落相見候三付、

親類・組合江内尋申付為相尋候得共居處

相知不申候三付、尚亦村人相添諸方相尋候得共

一圓行衛不相知、抛なく御注進奉申上候、以上、

糠尾村

名主

天保七丙申年十月十七日

年寄

庄左衛門 印
美野吉 印

一 同村方左之注進書差出申候間承届候上、
十二月七日迄當國尋申付候事、

糠尾村

名主

年寄

庄左衛門 印
美野吉 印

御役所様
津波新所

江島下
金平下
勇八下

此書より送進す一云

南村百姓繁藏義御馬寄村善九郎方二
奉公仕罷在候処、當七月廿日主人用三而
小諸町江罷越主人方江歸宅不仕欠落仕行方
相知不申、尤主人方取逃等二者無之旨申來
候得共居所相知れ不申候二付、尚又村人
相添諸方相尋候得共一圓行方不相知、無抛
御注進奉申上候、以上、

南村百姓繁藏義御馬寄村善九郎方二
奉公仕罷在候処、當七月廿日主人用三而
小諸町江罷越主人方江歸宅不仕欠落仕行方
相知不申、尤主人方取逃等二者無之旨申來
候得共居所相知れ不申候二付、尚又村人
相添諸方相尋候得共一圓行方不相知、無抛
御注進奉申上候、以上、

天保七丙申年十月十七日
右村
名主
連印

御役所様

此書より送進す一云

南村百姓繁藏義御馬寄村善九郎方二
奉公仕罷在候処、當八月十日奉公先より

田野口

御役所様

乍恐以書付御注進奉申上候

一當村百姓繁藏義御馬寄村善九郎方二

奉公仕罷在候処、當七月廿日主人用三而

小諸町江罷越主人方江歸宅不仕欠落仕行方

相知不申、尤主人方取逃等二者無之旨申來

候得共居所相知れ不申候二付、尚又村人

相添諸方相尋候得共一圓行方不相知、無抛

御注進奉申上候、以上、

右村

名主

連印

天保七丙申年十月十七日

寄年

田野口

御役所様

乍恐以書付御注進奉申上候

一當村百姓文作義田村捕屋作左衛門方二

奉公仕罷在候処、當八月十日奉公先より

八月十八日
申來候二付、親類・組合江内尋申付心當之
方為相尋候得共居所相知れ不申候二付、
猶亦村人相添諸方相尋候得共一圓行衛
不相知、無拋御注進奉申上候、以上、

糠尾村

名主

田野口

御役所様

天保七丙申年十月十七日

庄左衛門 印

外年寄右同断

連印

御役所様

十月十八日 天氣風吹

昨夜方風今曉雪壹寸程降ル

小平金十在所罷り越す

一 小平金十儀無拋用向三而相願、壹夜泊リニ

在所方小諸迄罷越申候事、

木曾福嶋役所より年賦金催促

一 木曾福嶋役所より年賦金催促為請取

永井定四郎罷越申候、尤郷宿丸太夫方ニ止宿

致居申候事、

十月十日

八月十八日

八月十八日

八月十八日

八月十八日

八月十八日

八月十八日

江戸表江御雜用金九月九日付上仁田三度便
を以差下候三付、昨日同所迄渡邊香吉ニ為持
差遣申候處入夜無滞罷歸申候、尤相添差遣候
御中間八郎も一同罷歸ル、
田代為右衛門殿爰元御用向相濟、來ル廿一日
御出立に付為御暇乞、御領分村々名主壱人ツ、
廿日四ツ時頃迄罷出候様廻状差出申候、尤上手
下手両通ニいたし出ス、

十月十九日 天氣

田代為右衛門殿來ル廿一日爰元御出立三付、今日
先觸竹内宇三郎方差出ス、尤廣川原通之積也、
湯原村帳外好藏差し押さえ注進書
入夜湯原村方左之通之注進書差出し申候、尤
其前郷宿を以内聞申達候、

田代為右衛門殿爰元御用向相濟、來ル廿一日
御出立に付為御暇乞、御領分村々名主壱人ツ、
廿日四ツ時頃迄罷出候様廻状差出申候、尤上手
下手両通ニいたし出ス、

江戸表へ雜用金送り

一 江戸表江御雜用金之内九拾兩下仁田三度便
を以差下候三付、昨日同所迄渡邊香吉ニ為持
差遣申候處入夜無滞罷歸申候、尤相添差遣候
御中間八郎も一同罷歸ル、

田代為右衛門へ暇乞いの通知

一 田代為右衛門殿爰元御用向相濟、來ル廿一日
御出立に付為御暇乞、御領分村々名主壱人ツ、
廿日四ツ時頃迄罷出候様廻状差出申候、尤上手
下手両通ニいたし出ス、

十月十九日 天氣

田代為右衛門出立の先觸出す

一 田代為右衛門殿來ル廿一日爰元御出立三付、今日
先觸竹内宇三郎方差出ス、尤廣川原通之積也、
湯原村帳外好藏差し押さえ注進書
入夜湯原村方左之通之注進書差出し申候、尤
其前郷宿を以内聞申達候、

乍恐書付を以御注進奉申上候

一 當夏中御帳外奉願上候好藏儀近邊ニ徘徊
仕罷在候風聞、然ル処先月廿七日夜庄兵衛方江
盜賊這入、右ニ付其節早速御注進奉申上、

十月廿日

湯原村帳外好藏吟味中入牢申し付け
昨夜及注進候湯原村帳外好藏為召捕、今未明ニ
阿部剛作・池田平作ニ御中間壺人、郷宿丸太夫
相添差遣候処、五ツ時前同道致候、尤右村掛リ合
人庄兵衛親類・組合之内壺人、好藏元親類・
組合之内壺人同道致候様申遣候ニ付、是又一同
同道致し申候事、

湯原村帳外好藏吟味中入牢申し付け

湯原村名主年寄一同、庄兵衛親類・組合惣代
武助并無宿好藏呼出相糺申候、右庄兵衛方江
這入候覚一切無御座旨、尤同村鉄藏并武助方
江著這入候段申聞候、一朝一夕之吟味話ニも不相成儀、
先ッ吟味中入牢申付候段申渡請書取之、
且好藏義無宿ものニ付、永牢人同様之取計
可致旨牢守作右衛門江申渡、村役人一同者
歸村申渡し候事、右請書之写左之通、

差上申御請一札

私義當五月中親甚右衛門并組合方

湯原村帳外好藏吟味中入牢申し付け

十月廿日 天氣

湯原村帳外好藏同道

昨夜及注進候湯原村帳外好藏為召捕、今未明ニ
阿部剛作・池田平作ニ御中間壺人、郷宿丸太夫
相添差遣候処、五ツ時前同道致候、尤右村掛リ合
人庄兵衛親類・組合之内壺人、好藏元親類・
組合之内壺人同道致候様申遣候ニ付、是又一同
同道致し申候事、

湯原村帳外好藏吟味中入牢申し付け

湯原村名主年寄一同、庄兵衛親類・組合惣代

武助并無宿好藏呼出相糺申候、右庄兵衛方江

這入候覚一切無御座旨、尤同村鉄藏并武助方

江著這入候段申聞候、一朝一夕之吟味話ニも不相成儀、

先ッ吟味中入牢申付候段申渡請書取之、

且好藏義無宿ものニ付、永牢人同様之取計

可致旨牢守作右衛門江申渡、村役人一同者

歸村申渡し候事、右請書之写左之通、

差上申御請一札

私義當五月中親甚右衛門并組合方

此様外より形通御帳外
 候處、其後追々不宜風聞被及
 御間候二付、御召捕可被成与被思召候處、此度
 村方^三紛失物之儀二付疑被相懸被差押
 御注進三相成、依之被召出御糺御座候處、
 湯原村鉄藏、同村武助方江上州小幡
 無宿勝藏と申合衣類其外品々を
 盜取候段申上、其外惡事不仕段申上
 候得共、其餘迎も私仕業^二も可有御座哉^与
 被思召、尚此上追々可被逐御吟味間、御吟味中
 入牢被仰付候間急度相愼可罷在旨
 被仰付奉畏候、為其御請書差上申候、
 以上、

此様外より形通御帳外
 候處、其後追々不宜風聞被及
 御間候二付、御召捕可被成与被思召候處、此度
 村方^三紛失物之儀二付疑被相懸被差押
 御注進三相成、依之被召出御糺御座候處、
 湯原村鉄藏、同村武助方江上州小幡
 無宿勝藏と申合衣類其外品々を
 盜取候段申上、其外惡事不仕段申上
 候得共、其餘迎も私仕業^二も可有御座哉^与
 被思召、尚此上追々可被逐御吟味間、御吟味中
 入牢被仰付候間急度相愼可罷在旨
 被仰付奉畏候、為其御請書差上申候、
 以上、

御役所

右無宿好藏申上候趣私共一同罷出承知
 仕候、為其奥印差上申候、以上、

御帳外奉願上、願之通御帳外三相成
 候處、其後追々不宜風聞被及
 御間候二付、御召捕可被成与被思召候處、此度
 村方^三紛失物之儀二付疑被相懸被差押
 御注進三相成、依之被召出御糺御座候處、
 湯原村鉄藏、同村武助方江上州小幡
 無宿勝藏と申合衣類其外品々を
 盜取候段申上、其外惡事不仕段申上
 候得共、其餘迎も私仕業^二も可有御座哉^与
 被思召、尚此上追々可被逐御吟味間、御吟味中
 入牢被仰付候間急度相愼可罷在旨
 被仰付奉畏候、為其御請書差上申候、
 以上、

天保七丙申年十月廿日
 無宿
 好藏 爪印
 田野口

御役所
 右無宿好藏申上候趣私共一同罷出承知
 仕候、為其奥印差上申候、以上、

申
丁
通

湯原村
名主
六右衛門
年寄
信三郎
同
七郎右衛門
同
權之丞
同
彦左衛門
同
与市
同
市郎右衛門
同
鐵藏
同
印

一
只代為右衛門殿明廿一日御出立三付、御領分村々
名主耆人ツ、罷出御暇乞申上候事、尤右之節
左之通之口達書を以被仰聞候事、

口達書

南邊作之義者格別之事二而分一統難義
之儀共相察候、右三付候而者夫々御手當も
可有之処、
上迎も如何御凌可相附事哉与不一下方成
御時節故、村々御救等御手不相届儀

湯原村

名主

六右衛門

印

年寄

信三郎

印

同

七郎右衛門

印

同

權之丞

印

同

彦左衛門

印

同

与市

印

同

市郎右衛門

印

同

鐵藏

印

申

十月廿日

右之通り也、

田代為右衛門口達書

一田代為右衛門殿明廿一日御出立三付、御領分村々

名主耆人ツ、罷出御暇乞申上候事、尤右之節

左之通之口達書を以被仰聞候事、

口達書

當違作之義者格別之事二而分一統難義

之儀共相察候、右三付候而者夫々御手當も

可有之処、

上迎も如何御凌可相附事哉与不一下方成

御時節故、村々御救等御手不相届儀

付て村役人共、飢人等無之様三厚く
世話可有之事三存候、尤兼而申觸も致置候通
手丈不届もの者可申出候、一同彼是不一通成
心配之中申聞兼候義三候得共、御収納方
案外大減三而如何共御暮立兼候間、去暮
當時追追々差出置候先納金之内
千三百兩御借返し之積相心得村々出精頼候、
其外多分之御不足相見候得共別段
才覚等不申付候間、前金高之儀
何分出情有之度、猶委細之義三追々
在役之者方可申談候事、

何れも情を交し候間、御意に
左様にと下し置候事

十月

右之通也

一 田代為右衛門殿明日御出立三付、田野口村役人暇乞い
寄一同罷出御暇乞申上候事、
割元など田代為右衛門見送り
一 割元中條武左衛門罷出申達候者、明御出役様
御見送り之儀者私并孫兵衛罷越候段申達候事、

右之通也、

十月

田代為右衛門出立に付田野口村役人暇乞い

一 田代為右衛門殿明日御出立三付、田野口村名主・年
寄一同罷出御暇乞申上候事、

割元など田代為右衛門見送り

一 割元中條武左衛門罷出申達候者、明御出役様
御見送り之儀者私并孫兵衛罷越候段申達候事、

田代為右衛門殿、口達覺領分村々御請け日延べ
去冬御繰上分千式百兩分、并當春以來御繰上分
之内百兩都合千三百兩之分著御借返三相成候積之
御達書御頼之御請之儀、村々難渋申立御請相成
兼候趣申聞候三付、又々上手・下手惣代二而六ヶ村程
呼出し、理解精々申聞御請致候様申聞候処、來ル
廿四日有無共日延申達候事、

十月廿一日 天氣

田代為右衛門殿、口達覺領分村々御請け日延べ
去冬御繰上分千式百兩分、并當春以來御繰上分
之内百兩都合千三百兩之分著御借返三相成候積之
御達書御頼之御請之儀、村々難渋申立御請相成
兼候趣申聞候三付、又々上手・下手惣代二而六ヶ村程
呼出し、理解精々申聞御請致候様申聞候処、來ル
廿四日有無共日延申達候事、

輕井澤宿御出入御定宿脇本陣年寄
輕井澤宿御出入御定宿脇本陣年寄

田代為右衛門殿、口達覺領分村々御請け日延べ
去冬御繰上分千式百兩分、并當春以來御繰上分
之内百兩都合千三百兩之分著御借返三相成候積之
御達書御頼之御請之儀、村々難渋申立御請相成
兼候趣申聞候三付、又々上手・下手惣代二而六ヶ村程
呼出し、理解精々申聞御請致候様申聞候処、來ル
廿四日有無共日延申達候事、

十月廿一日 天氣

田代為右衛門殿、口達覺領分村々御請け日延べ
去冬御繰上分千式百兩分、并當春以來御繰上分
之内百兩都合千三百兩之分著御借返三相成候積之
御達書御頼之御請之儀、村々難渋申立御請相成
兼候趣申聞候三付、又々上手・下手惣代二而六ヶ村程
呼出し、理解精々申聞御請致候様申聞候処、來ル
廿四日有無共日延申達候事、

佐友忠忠事、古私南忠事、
陳州入中後、月、指、向難洪罷候上、
去巳年、年々、遠作、米穀其外、
諸色共追々高直、
諸家様方御通行、旅人往來共甚薄、
相成、家業取續兼漸々當罷在候処、當
三月中私祖母儀病死仕候故物入多難洪
仕、尚又當年、格外之凶作、米穀并諸
色共甚高直、其上米穀悉拂底にて
日々家業之入用程、米引足り不申
候故差支、無是非家業相休勝罷成、難洪
弥増追日極々困窮誠、當惑至極仕候処、當驛
之儀、耕作一向、無之土地、何、も夫食
三可相成品之貯等一切無御座候、從
御支配様之御救計を以誠、漸々かすかに
家族給續罷在候、御座候、然ル処私父
延助義急病差起養生不相叶去ル十日
死去仕候、依之弥以將行詰リ困窮無此上
仕合、御座候得、此後家族之もの共給續
越年之當難相成實々當方暮罷在、

佐友忠忠事、古私南忠事、
陳州入中後、月、指、向難洪罷候上、
去巳年、年々、遠作、米穀其外、
諸色共追々高直、
諸家様方御通行、旅人往來共甚薄、
相成、家業取續兼漸々當罷在候処、當
三月中私祖母儀病死仕候故物入多難洪
仕、尚又當年、格外之凶作、米穀并諸
色共甚高直、其上米穀悉拂底にて
日々家業之入用程、米引足り不申
候故差支、無是非家業相休勝罷成、難洪
弥増追日極々困窮誠、當惑至極仕候処、當驛
之儀、耕作一向、無之土地、何、も夫食
三可相成品之貯等一切無御座候、從
御支配様之御救計を以誠、漸々かすかに
家族給續罷在候、御座候、然ル処私父
延助義急病差起養生不相叶去ル十日
死去仕候、依之弥以將行詰リ困窮無此上
仕合、御座候得、此後家族之もの共給續
越年之當難相成實々當方暮罷在、

右三付乍恐可罷成候ハ、何卒格別之以
御慈悲何三而も夫食三相成候御品四、五俵程、
當年中三御拝借被為仰付被下置候様
奉願上候、尤右御返上納之儀者御年賦
御割濟三追々御上納仕度奉願上候、
右御歎願奉申上候趣御時節柄甚恐入
奉申上兼候得共、極々困窮之上一ヶ年三
両度之不幸旁々以誠三必至与差詰リ、
家族之もの共難給續當惑不過之潰之
程も無覺束歎ハ敷奉存候間、不奉願
恐をも此段奉願上候、尤私儀遠慮中三
罷在候三付、親類惣代當宿惣左衛門を以
御内々御歎奉願上候、何卒前書之始末
被為聞召訳、格別之以御慈悲御内々為
御救願之通御拝借被仰付被下置候様偏三
奉願上候、以上、

右三付乍恐可罷成候ハ、何卒格別之以
御慈悲何三而も夫食三相成候御品四、五俵程、
當年中三御拝借被為仰付被下置候様
奉願上候、尤右御返上納之儀者御年賦
御割濟三追々御上納仕度奉願上候、
右御歎願奉申上候趣御時節柄甚恐入
奉申上兼候得共、極々困窮之上一ヶ年三
両度之不幸旁々以誠三必至与差詰リ、
家族之もの共難給續當惑不過之潰之
程も無覺束歎ハ敷奉存候間、不奉願
恐をも此段奉願上候、尤私儀遠慮中三
罷在候三付、親類惣代當宿惣左衛門を以
御内々御歎奉願上候、何卒前書之始末
被為聞召訳、格別之以御慈悲御内々為
御救願之通御拝借被仰付被下置候様偏三
奉願上候、以上、

天保七申年十月

輕井澤宿
御定宿
協御本陣年寄
佐藤忠右衛門
親類惣代
惣左衛門
惣右衛門

天保七申年十月
輕井澤宿
御定宿
協御本陣年寄
佐藤忠右衛門
親類惣代
惣左衛門
惣右衛門

田野口様

御役所

右之通之歎書差出申候間、於御役所及面談
預り置申候、尤御領分内夫食手當も差支候
時節三付、得与申談可及挨拶旨申聞相返候、
且當方右差支之趣も精々申聞候事、
下小田切村茂兵衛盜難届
下小田切村方左之注進書差出し申候、
乍恐以書付御注進奉申上候

一 當村御百姓茂兵衛方^江八月五日夜壁伐
破り盜賊這入被盜取、右之段一圓不奉存
夜明方見付夫方諸方穿鑿仕候得共、
何分相知不申候段村役元^江訴出候間、
村役人立會被盜取候品救相改候処左之通リ、
一小ふとん
但しもめん
壹ッ

一 望城^江入^江望城^江後一^江家^江子^江好
相方^江人^江有^江あり^江所^江方^江穿^江鑿^江仕^江候^江得^江共、
何^江分^江相^江知^江不^江申^江候^江段^江村^江役^江元^江訴^江出^江候^江間、
村^江役^江人^江立^江會^江被^江盜^江取^江候^江品^江救^江相^江改^江候^江処^江左^江之^江通^江リ、
一 小ふとん
但しもめん
壹ッ

一 襦
但しもめん
四枚

一 襦
但しもめん
壹ッ

一 襦
但しもめん
壹ッ

一 襦
但しもめん
壹ッ

一 襦
但しもめん
壹ッ

田野口様

御役所

右之通之歎書差出申候間、於御役所及面談
預り置申候、尤御領分内夫食手當も差支候
時節三付、得与申談可及挨拶旨申聞相返候、
且當方右差支之趣も精々申聞候事、
下小田切村茂兵衛盜難届

一 下小田切村方左之注進書差出し申候、
乍恐以書付御注進奉申上候

一 當村御百姓茂兵衛方^江八月五日夜壁伐
破り盜賊這入被盜取、右之段一圓不奉存
夜明方見付夫方諸方穿鑿仕候得共、
何分相知不申候段村役元^江訴出候間、
村役人立會被盜取候品救相改候処左之通リ、
一小ふとん
但しもめん
壹ッ

一 裕
但しもめん
壹ッ

一 綿入
但しもめん
四枚

一 股引
但しもめん
壹ッ

一 帶
但しもめん
壹筋

一 羽織
但しもめん
壹ッ

一ものし
但し男物
前書之通被盜取候處相違無御座候間、追而
手掛御座候節御吟味奉願上度、此段以
書付御注進奉申上候、以上、

田中
市役所様

下小田切村
名主
年寄
儀助
又左衛門
又右衛門
又左衛門
又右衛門

右之通之注進書差出候間請取置、追而
手掛有之候ハ、可願出旨申聞相返ス、

十月廿二日

上海瀨村一件關係者手鎖赦免願
手鎖御免御慈悲願として、菩提寺余地村
自成一寺留守三付代僧平林村名主八郎兵衛
年寄多忠罷出、當時節柄甚難洪當人儀も
後悔至極致候趣、一向被相詫候間及面談、

一ものし
但し男物
壹ッ

前書之通被盜取候處相違無御座候間、追而
手掛御座候節御吟味奉願上度、此段以
書付御注進奉申上候、以上、

下小田切村

名主

兵左衛門 印

年寄

儀助 印

同

又左衛門 印

同

嘉兵衛 印

同

儀右衛門 印

田野口

御役所様

右之通之注進書差出候間請取置、追而

手掛有之候ハ、可願出旨申聞相返ス、

十月廿二日 曇ル

上海瀨村一件關係者手鎖赦免願

上海瀨村一件之共并与四郎事市重郎
手鎖御免御慈悲願として、菩提寺余地村
自成一寺留守三付代僧平林村名主八郎兵衛
年寄多忠罷出、當時節柄甚難洪當人儀も
後悔至極致候趣、一向被相詫候間及面談、
右重

對御詫明日呼出差免し可申段及挨拶候事、

十月廿三日 天氣今曉大雨

蕃松院へ御代香

一 蕃松院江為御代香川村銳吉郎罷越ス、

下役渡邊香吉召連申候事、

上海瀨村一件發言人與四郎赦免請書

一 上海瀨村一件之もの共今日一同呼出し、

左之通之請書取之差免し申候、尤平林村

両人も罷出申候事、

差上申一札之事

私儀村内之者共申合、去ル九日乃十一日迄晝夜村方

真宗寺江寄集り相談之上、村役元江百姓代を以

願出候者、當凶作二付從

御上様御拝借御願被下候様申上候處、村役人中

被申聞候者、困窮人^{与而巳}之願立^三も候ハ、格別、村方

一統之願^{与有之候而者}不筋之願、中々以取上^ケ不

相成旨申聞相返し候處、又候押返し

御上様方之御拝借相成兼候ハ、郷借用いたし度趣

一 蕃松院^江為御代香川村銳吉郎罷越ス、
下役渡邊香吉召連申候事、
一 上海瀨村一件發言人與四郎赦免請書
左之通之請書取之差免し申候、尤平林村
両人も罷出申候事、

差上申一札之事

私儀村内之者共申合、去ル九日乃十一日迄晝夜村方
真宗寺江寄集り相談之上、村役元江百姓代を以
願出候者、當凶作二付從
御上様御拝借御願被下候様申上候處、村役人中
被申聞候者、困窮人^{与而巳}之願立^三も候ハ、格別、村方
一統之願^{与有之候而者}不筋之願、中々以取上^ケ不
相成旨申聞相返し候處、又候押返し
御上様方之御拝借相成兼候ハ、郷借用いたし度趣

中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、

中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、
中世以來、文村役人、中世以來、

申出候處、尚又村役人中當時ち様之願難
取合旨被申聞候三付、左候ハ、無抱
御役所様江直訴可仕旨申達一同真宗寺を
引拂、其上金左衛門始外九人者直ニ途中迄罷出
候處、村方太郎左衛門、平林村役人中被罷出差留候
始末三付、弥大勢直訴可仕も難計左候^{而者恐}
入候迎、村方役人中ニも御耳打として被罷出候處、
無左共救日村内寺ニ寄集リ居候風聞御聞
込も有之候儀三付、被召出御糺可有之被思召候折柄三付、
為惣代私始メ外六人去ル十三日被召出人別ニ御吟味
被成下、兼而度々嚴重ニ御觸御座候義を相背、
大勢寄集リ候始末不届ニ被思召、右様之御願
立等仕候^{而者}頭取之者可有御座義^与御糺
御座候處、私發言之趣銘々申上、私方も難決^二
迫リ何之并も無之發言仕奉恐入候段申上候處、
即頭取之筋ニ相當不輕不届ニ付、御吟味中
入牢被仰付置、御吟味詰を以江戸御伺
之上重御仕置ニ可被仰付筈之處、其節

仰渡奉畏難有仕合三奉存候、為其御請
印形差上申処仍如件、

上海瀬村

天保七丙申年十月廿三日 与四郎 印

田野口
御役所

御役所

右与四郎江被仰渡之趣私共一同罷出
承知仕候、為其奥書印形差上申候、以上、

右村

申十月廿三日

名主

新之丞 印

年寄 九兵衛 印

同 彦之丞 印

同 源之丞 印

同 善之丞 印

同 德左衛門 印

同 百姓代 八右衛門 印

同 源右衛門 印

右奥書印形差上申候、以上、

田野口
御役所

仰渡奉畏難有仕合三奉存候、為其御請
印形差上申処仍如件、

田野口

上海瀬村

天保七丙申年十月廿三日 与四郎 印

田野口

御役所

右与四郎江被仰渡之趣私共一同罷出

承知仕候、為其奥書印形差上申候、以上、

右村

申十月廿三日

名主

新之丞 印

年寄 九兵衛 印

同 彦之丞 印

同 源之丞 印

同 善之丞 印

同 德左衛門 印

同 百姓代 八右衛門 印

同 源右衛門 印

合部族衆

動之丞 下

口族衆

市五郎 下

市五郎之事

私共儀去ル九日方同十一日迄村内真宗寺江
大勢打寄及雜談、既銘々組親江も通達
仕村中申合、百姓代を以村役元江申立候者、當年
稀成違作三而銘々夫食差支當時方及
飢候間、何卒

稀成違作三而銘々夫食差支當時方及
飢候間、何卒

御上様江御拝借成共相願呉候様申出候處、
村役人中被申聞候者右体村中申合我
儘之願立等仕候段難心得、殊更御檢見
被成下候而未御引方等之有無をも不奉承知
以前、右様之願立等仕候義容易不成義三付、
取次不相成旨被申聞候三付、猶又押返し
左候ハ、郷借用成共被致、銘々貸渡シ呉候様ニ

与四郎親類惣代

勘之丞 印

同人組合惣代

市五郎 印

甚左衛門外五人急度お叱り請書

差上申一札之事

私共儀去ル九日方同十一日迄村内真宗寺江

大勢打寄及雜談、既銘々組親江も通達

仕村中申合、百姓代を以村役元江申立候者、當年

稀成違作三而銘々夫食差支當時方及

飢候間、何卒

御上様江御拝借成共相願呉候様申出候處、

村役人中被申聞候者右体村中申合我

儘之願立等仕候段難心得、殊更御檢見

被成下候而未御引方等之有無をも不奉承知

以前、右様之願立等仕候義容易不成義三付、

取次不相成旨被申聞候三付、猶又押返し

左候ハ、郷借用成共被致、銘々貸渡シ呉候様ニ

弟、信者有在國初多事後日亦時
而止其子之孫皆以爲此家業不
可與他人言也。弟、信者有在國初
多事後日亦時而止其子之孫皆以
爲此家業不可與他人言也。

146

市川隆之右衛門尉格別之思召思召
之儘郷宿預之被仰付相愼罷在候處、
是以前後之弁ひも無之困窮^二迫^リ
發言仕候^而已^三而、全^ク徒黨等仕候儀^三者無
御座、今更後悔仕菩提寺自成寺^江相歎、
其上隣村平林村名主八郎兵衛、年寄多忠を以
再々應御詫願申上候得共、一通^リ不成不埒^二付
御取用難被成候得共、違作之折柄親類・組合
難洩之段も御察被遊、先日中村預^ケ二被
仰付相愼罷在候處、尚又押^而御咎御免之儀
再應和尚方被申上候^二付、稀成違作之折柄
御伺之上重^キ御仕置^二も被仰付候ハ、村中
一統之難洩^二もおよ^ハ候段御察思召、依之
右御詫願^二被對与四郎御咎御免、格別
之御慈非^也を以身分永^ク村預^ケ被仰付、
私共儀も御制外之思召を以急度御叱
被置候間、以來萬端心付兼^而被仰出
候趣相守、御百姓実体^三可相勤旨被

仰付相愼罷在候處、尚又押^而御咎御免之儀
再應和尚方被申上候^二付、稀成違作之折柄
御伺之上重^キ御仕置^二も被仰付候ハ、村中
一統之難洩^二もおよ^ハ候段御察思召、依之
右御詫願^二被對与四郎御咎御免、格別
之御慈非^也を以身分永^ク村預^ケ被仰付、
私共儀も御制外之思召を以急度御叱
被置候間、以來萬端心付兼^而被仰出
候趣相守、御百姓実体^三可相勤旨被

仰渡奉畏難有仕合三奉存候、為其一札
印形差上申處依而如件、

上海瀬村

天保七丙申年十月廿三日

忠兵衛門
金左衛門
善次郎
傳次郎
喜惣太

忠兵衛門
金左衛門
善次郎
傳次郎
喜惣太

右村 仰渡奉畏難有仕合三奉存候、為其一札
印形差上申處依而如件、

上海瀬村

天保七丙申年十月廿三日

新之丞
源之丞
善之丞
德左衛門
百姓代
八右衛門

仰渡奉畏難有仕合三奉存候、為其一札
印形差上申處依而如件、

上海瀬村

天保七丙申年十月廿三日

忠兵衛門
金左衛門
善次郎
傳次郎
喜惣太

右被仰渡之趣私共一同罷出承知仕候、
為其奧書印形差上申候、以上、

右村

申
名主

十月廿三日

新之丞印
九兵衛印
彦之丞印
源之丞印
善之丞印
德左衛門印
百姓代
八右衛門印

源右衛門 下
 甚左衛門親類惣代 下
 平兵衛 下
 忠兵衛親類惣代 下
 源吉 下
 十左衛門 下
 金左衛門親類惣代 下
 半弥 下
 八右衛門 下
 善次親類惣代 下
 庄兵衛 下
 傳次郎親類惣代 下
 三右衛門 下
 喜左衛門 下
 喜宗太親類惣代 下
 藤四郎 下
 勝右衛門 下

同
 源右衛門 印
 甚左衛門親類惣代
 平兵衛 印
 忠兵衛親類惣代
 太郎左衛門 印
 源吉 印
 十左衛門 印
 金左衛門親類惣代
 半弥 印
 八右衛門 印
 善次親類惣代
 庄兵衛 印
 傳次郎親類惣代
 三右衛門 印
 喜左衛門 印
 喜宗太親類惣代
 藤四郎 印
 勝右衛門 印

十月廿四日

一 湯原村々繰上金又々日延べ願
御領分村々繰上金又々日延べ願
繰上金之儀未御請も出來兼、又々日延之
儀兩郷宿を以申達候間、承届申候事、
下手村々役所用米日延べ願
下手村々郷宿瀬左衛門を以申達候者、御役所用米
先日御觸有之候得共當月中二者揃兼候間、來月
三日頃方廻状相願度趣申達候間承置申候、
尤此節一向御用米無之三付、村々老俵ツ、も
可相成丈取急相納候様申付候事、

割元土屋銀右衛門江戸より帰宅

一 割元土屋銀右衛門義先頃内藤隼人正様より
御差紙三而出府事濟二而入夜ニ罷歸ル、

同月廿五日 天氣

役所用米納所廻状差出し

一 御役所用米為納所來月朔日より
廻村致候趣廻米差出し申候事、

湯原村無宿好藏吟味村役人呼出し

一 湯原村無宿好藏明日又候呼出吟味致候三付、
同村名主・年寄罷出候様剪紙出ス、

一 湯原村々繰上金又々日延べ願
御領分村々繰上金又々日延べ願
繰上金之儀未御請も出來兼、又々日延之
儀兩郷宿を以申達候間、承届申候事、
下手村々役所用米日延べ願
下手村々郷宿瀬左衛門を以申達候者、御役所用米
先日御觸有之候得共當月中二者揃兼候間、來月
三日頃方廻状相願度趣申達候間承置申候、
尤此節一向御用米無之三付、村々老俵ツ、も
可相成丈取急相納候様申付候事、

十月廿七日 曇ル少雪降ル

大澤村年寄安右衛門母死去届
届申達候、尤時節柄之儀三付忌中半減三而
御用向相勤候様申渡候事、

湯原村音吉召捕え出役
湯原村剪紙一同罷出候三付、無宿好藏呼出シ
遂吟味候処大体及白状申候、右申口にて
同村音吉与申もの携悪事候趣申候三付、
直様為召捕阿部剛作・池田平作三
御中間告人并郷宿相添差遣し申候事、

小平金十野澤村邊へ罷越す

一 小平金十無拠要用三而相願、野澤村邊迄
日戻リ罷越申候事、

木曾福嶋より年賦金催促の者出立

一 木曾福嶋万年賦金為催促、此程中
永井定四郎参リ郷宿丸太夫方三逗留
罷在候処、才覚方不行届來月中迄
申延今日出立致し申候事、

湯原村音吉召捕え

一 湯原村音吉為召取差遣候阿部剛作・
池田平作夜五ッ半時過頃召捕罷歸申候、

湯原村音吉召捕え出役
湯原村剪紙一同罷出候三付、無宿好藏呼出シ
遂吟味候処大体及白状申候、右申口にて
同村音吉与申もの携悪事候趣申候三付、
直様為召捕阿部剛作・池田平作三
御中間告人并郷宿相添差遣し申候事、

右和左衛門後家奉願上候通相違無御座候間、
申渡候事、且音吉親類惣代壹人、組合
惣代同道致し申候事、

十月廿七日 天氣風吹

一 太田部村川除御普請完了届
申候三付、為御禮兩人罷出申候間承届ル、
尤仕上見分之儀、明日相願候旨申達候、
太田部村和左衛門後家忤冬稼ぎ願
一同村より左之通之願書差出申候間承届ル、
忤恐以書付奉願上候

私忤長吉儀當國松本紺(屋脱力)町江冬渡世三
差遣申度奉願上候、尤來早春^{二者}罷歸
申度候間、忤恐御慈悲を以右願之通
被為仰付被下置候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上、
太田部村
願人

一 後家
和左衛門
御役所様

右和左衛門後家奉願上候通相違無御座候間、

尤夜分之儀三付宿江繩付之儘相預申候段
申渡候事、且音吉親類惣代壹人、組合
惣代同道致し申候事、

十月廿七日 天氣風吹

太田部村川除御普請完了届

一 太田部村川除御普請所昨日迄三相濟
申候三付、為御禮兩人罷出申候間承届ル、
尤仕上見分之儀、明日相願候旨申達候、
太田部村和左衛門後家忤冬稼ぎ願
一同村より左之通之願書差出申候間承届ル、
忤恐以書付奉願上候

私忤長吉儀當國松本紺(屋脱力)町江冬渡世三
差遣申度奉願上候、尤來早春^{二者}罷歸
申度候間、忤恐御慈悲を以右願之通
被為仰付被下置候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上、
太田部村
願人

天保七丙申年十月廿七日
和左衛門
後家
印

田野口
御役所様

右和左衛門後家奉願上候通相違無御座候間、

奥書印形仕奉差上候、以上、

月番
名主
豊多印

一 同村九右衛門心願三付、來月朔日出立にて
坂東神社佛閣致拝禮、來ル西四月下旬
罷歸り度趣、月番名主豊多奥書印形
いたし願出候間、承届申候事、
沓澤村栄助忒欠落注進

一 沓澤村方左之通之注進書差出し申候、
乍恐以書付御注進奉申上候

一 南村百姓栄助忒欠落注進

一 南村百姓栄助忒欠落注進
家出仕歸宅不仕候三付、家内取調見候處
欠落之趣三相見候間、親類・組合江内尋申付
為相尋候得共居所相知不申候三付、尚又
村人相添相尋候得共一圓行衛相知れ
不申候間、御注進奉申上候、以上、
沓澤村
名主

天保七丙申年十月廿七日

兵左衛門
年寄
勘藏印

奥書印形仕奉差上候、以上、

月番

名主

豊多印

十月

太田部村九右衛門坂東神社佛閣拜禮願

一同村九右衛門心願三付、來月朔日出立にて

坂東神社佛閣致拝禮、來ル西四月下旬

罷歸り度趣、月番名主豊多奥書印形

いたし願出候間、承届申候事、

沓澤村栄助忒欠落注進

一 沓澤村方左之通之注進書差出し申候、

乍恐以書付御注進奉申上候

一 當村百姓栄助忒欠落注進、當月廿日

家出仕歸宅不仕候三付、家内取調見候處

欠落之趣三相見候間、親類・組合江内尋申付

為相尋候得共居所相知不申候三付、尚又

村人相添相尋候得共一圓行衛相知れ

不申候間、御注進奉申上候、以上、

沓澤村

名主

天保七丙申年十月廿七日

兵左衛門

年寄
勘藏印

田島
津役所様

徳太郎印
其右衛門印
善兵衛印
半三郎印
同

此書は津役所様へ

南無阿弥陀仏を念ふ者には
万善具足万惡不生の南無阿彌陀仏
の句を
此の紙に記し置候

此の紙に記し置候
此の紙に記し置候
此の紙に記し置候
此の紙に記し置候
此の紙に記し置候

天保七丙申年十月廿七日
兵左衛門
勘藏印
徳太郎印

田野口

御役所様

沓澤村文藏孫奉公先より欠落注進

乍恐以書付御注進奉申上候

一當村百姓文藏孫多忠儀、春日村兵太夫

方三奉公仕罷在候所、當月十五日主人

用向三罷出候所歸宅不仕欠落仕候

趣、尤取逃等二無之旨主人方より申來

候三付、親類・組合江内尋申付為相尋

候得共居所相知不申候三付、尚又村人

相添相尋候得共一圓行衛相知不申候間、

御注進奉申上候、以上、

沓澤村

名主

天保七丙申年十月廿七日

年寄

勘藏

同

徳太郎

同

徳太郎

同

其右衛門

同

善兵衛

同

半三郎

同

吉右衛門

同

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

田舎
御役所様

其右衛門
印
同
善兵衛
印
同
半三郎
印
同
吉右衛門
印

右之通之注進書差出申候間承届ケ、
兩人共來ル十二月十七日迄當國（尋脱）申付ル、
上小田切村欠落人剛四郎隣國尋ね申付け
上小田切村欠落人剛四郎儀、今日迄之日限
を以當國尋申付置候處、未行衛も不相知段
村役人兩人罷出届申達候ニ付、尚又是追之
人救ニ隣國相尋、十二月十七日迄尋方
申付候事、

湯原村乙吉と好藏対決の上乙吉帰村申付け

昨夜郷宿預ケ申付置候湯原村乙吉并親類・
組合召呼相糺候處、無宿好藏申掛ケにて
惡事携候覺無御座趣申限リ候間、右好藏
呼出し對決申付致吟味候、意恨ニ申掛ケ
致し全く偽リ之趣申聞候間、音吉其外
親類・組合とも疑相晴候ニ付、帰村申付ル、
無宿好藏申口書き写し
無宿好藏吟味申口昨日取候書面之写

左之通り

御吟味二付申上候一札

無宿

好藏

當申式拾四才

山口

私儀身持不埒（天保六年）去未十二月御領内
湯原村致欠落、其段其段村役人中より
御注進申上候二付、御定例之尋方被
仰付候得共行衛相知れ不申、依之親甚右衛門
并親類・組合之者共方御帳外奉願上、當
申ノ五月中願之通御帳外被仰付罷在候、
然ル処両三年此方近邊所々江盜賊這入、
品々被盜取候もの共方追々品致奉書上、
手掛り御座候節御吟味可奉願与奉願上
置候由之処、右惡事仕候者私二茂可有之
哉与風聞追々御聞込有之、御召捕御糺
可有御座与被思召候、折柄村内庄兵衛方

五親類御座、右方山帳外奉願上南
申ノ五月中願之通御帳外被仰付罷在候、
然ル処両三年此方近邊所々江盜賊這入、
品々被盜取候もの共方追々品致奉書上、
手掛り御座候節御吟味可奉願与奉願上
置候由之処、右惡事仕候者私二茂可有之
哉与風聞追々御聞込有之、御召捕御糺
可有御座与被思召候、折柄村内庄兵衛方

近邊徘徊仕候を被見請被差押置御吟味
奉願上候ニ付、去ル廿日被召捕一通り御吟味
之上入牢被仰付、尚又今日被召出御糺ニ
御座候、
山三郎

一
去ル十一月七日夜湯原村鉄藏方土藏
錠前を焼拔、衣類其外廿壹品盗取候覺
有之哉御吟味ニ御座候、

此段私儀者外見いたし居、上州小幡無宿
勝藏与申もの土藏戸錠前を焼拔衣類
其外品々盗取、右雜物之内夏羽織壹ツ・
女木綿着物壹ツ・上田縞綿入壹ツ・單物
壹ツ・女帶老筋右之品々私方江請取、
佐久郡安原村常右衛門与申もの相頼、
新子田村質屋江遣し、金壹両壹分
請取申候、
江村

紛失物之儀ニ付弥以私義疑惑相懸リ、

近邊徘徊仕候を被見請被差押置御吟味

奉願上候ニ付、去ル廿日被召捕一通り御吟味

之上入牢被仰付、尚又今日被召出御糺ニ

御座候、

一 去ル^(天保六年)十一月七日夜湯原村鉄藏方土藏

錠前を焼拔、衣類其外廿壹品盗取候覺

有之哉御吟味ニ御座候、

此段私儀者外見いたし居、上州小幡無宿

勝藏与申もの土藏戸錠前を焼拔衣類

其外品々盗取、右雜物之内夏羽織壹ツ・

女木綿着物壹ツ・上田縞綿入壹ツ・單物

壹ツ・女帶老筋右之品々私方江請取、

佐久郡安原村常右衛門与申もの相頼、

新子田村質屋江遣し、金壹両壹分

請取申候、

一 同村武助方江去未十一月廿五日夜壁を伐
盗賊這入、衣類其外拾三品盗取候儀御糺ニ
御座候、

此段是又私并無宿勝藏申合衣類
其外品々盗取、右之内女帶沓筋・上着
沓・下着沓・太織單物沓・足袋式足
配分取、足袋者私相用殘四品者追分
宿旅籠屋富屋弥兵衛与申者相頼、
馬瀬口村質屋江遣し金沓両請取
申候、

馬瀬口村質屋江遣し金沓両請取
申候、

一 未十一月廿四日夜下小田切村勘藏方紛失
物之儀御尋ニ御座候、

此段無宿勝藏を私手引仕為盗取、
右品之内女物継々綿入沓・帶沓筋・
脇差沓腰・夏帶様之もの沓筋私逗留
先小諸江持参、同町部屋ニ罷在候雲助

一同村武助方江去未十一月廿五日夜壁を伐

盗賊這入、衣類其外拾三品盗取候儀御糺ニ
御座候、

此段是又私并無宿勝藏申合衣類

其外品々盗取、右之内女帶沓筋・上着

沓・下着沓・太織單物沓・足袋式足

配分取、足袋者私相用殘四品者追分

宿旅籠屋富屋弥兵衛与申者相頼、

馬瀬口村質屋江遣し金沓両請取

申候、

未十一月廿四日夜下小田切村勘藏方紛失
物之儀御尋ニ御座候、

此段無宿勝藏を私手引仕為盗取、

右品之内女物継々綿入沓・帶沓筋・

脇差沓腰・夏帶様之もの沓筋私逗留

先小諸江持参、同町部屋ニ罷在候雲助

湯原村庄兵衛方江去月廿七日夜盜賊入候
始末御糺ニ御座候、
此段庄兵衛娘婚姻御座候儀不存罷在
候處、同村宗五郎忤乙吉方當郡鍵掛村
無宿權次江娘入支度有之趣致内通、
廿七日曉中小田切村鎮守五社明神
社中ニ而右權次并勝藏・乙吉・私四人
申合、乙吉儀者直ニ相分れ歸村仕候、
其跡ニ而三人庄兵衛方江罷越、私儀者
宅廻りいたし居、權次・勝藏雜物取出シ
候上、私儀も小柳女帶沓筋・反もの
三反・脇差沓腰取出し兩人江相渡、其節

湯原村庄兵衛方江去月廿七日夜盜賊入候
始末御糺ニ御座候、

此段庄兵衛娘婚姻御座候儀不存罷在
候處、同村宗五郎忤乙吉方當郡鍵掛村
無宿權次江娘入支度有之趣致内通、
廿七日曉中小田切村鎮守五社明神
社中ニ而右權次并勝藏・乙吉・私四人
申合、乙吉儀者直ニ相分れ歸村仕候、
其跡ニ而三人庄兵衛方江罷越、私儀者
宅廻りいたし居、權次・勝藏雜物取出シ
候上、私儀も小柳女帶沓筋・反もの
三反・脇差沓腰取出し兩人江相渡、其節

湯原村庄兵衛方江去月廿七日夜盜賊入候
始末御糺ニ御座候、
此段庄兵衛娘婚姻御座候儀不存罷在
候處、同村宗五郎忤乙吉方當郡鍵掛村
無宿權次江娘入支度有之趣致内通、
廿七日曉中小田切村鎮守五社明神
社中ニ而右權次并勝藏・乙吉・私四人
申合、乙吉儀者直ニ相分れ歸村仕候、
其跡ニ而三人庄兵衛方江罷越、私儀者
宅廻りいたし居、權次・勝藏雜物取出シ
候上、私儀も小柳女帶沓筋・反もの
三反・脇差沓腰取出し兩人江相渡、其節

信江より書きたるに、
乙吉江も壹両も遣し候間、
主の者より申上るに、
おのれを信江より海に渡り
房より申上るに、
おのれを信江より海に渡り
おのれを信江より海に渡り
おのれを信江より海に渡り
おのれを信江より海に渡り

おのれを信江より海に渡り
おのれを信江より海に渡り
おのれを信江より海に渡り
おのれを信江より海に渡り
おのれを信江より海に渡り

おのれを信江より海に渡り

おのれを信江より海に渡り

おのれを信江より海に渡り

おのれを信江より海に渡り

おのれを信江より海に渡り

権次申聞候者式両も遣し度候得とも

乙吉江も壹両も遣し候間、壹両三分

遣し候旨申候二付右金子請取申候、

品もの、義者権次嫌當郡海瀬新田村

房 与申もの女房二、盗物荷作り

松本江差送り候趣二承知仕候、此邊二

盗取候品々者同人方松本江遣シ、松本

邊之代呂物者此邊江持参取捌候様子二

御座候、尤右庄兵衛方代呂もの未房

方三少々者相残居候哉も難計奉存候、

右御吟味二付相違不申上候、以上、

右

天保七丙申年十月廿六日 好藏 爪印

田野口

御役所

右好藏御糺之趣私共一同罷出承知仕候、

婚姻有之候儀者湯原村宗五郎倅乙吉右權次
承リ候趣申上候三付、早速右乙吉儀御召捕今日被召出
御糺ニ御座候處、全ク私家出後同人出會候儀無之候得者、
中小田切村鎮守社杯ニ相談等仕候義決而覺無之
旨申上候三付、猶又私被召出御糺ニ御座候、

此段私儀今度被召捕候以前、追分宿借宿
之境ニ乙吉出會候。○忤同人湯原村ニ申觸シ候故、
今度此始末ニ茂相成候与奉存候三付、右之遺恨ニ
依而申掛仕候、全ク勝藏・權次・私三人ニ申合盜取候
上不殘權次ニ相渡、右品之内小袖式ツ・木綿着物
三ツハ私請取、佐久郡勝間村文左衛門与申者相頼、

同村清左衛門隱居清四郎方江質入三仕金子貳兩
借受、右文左衛門江世話料として錢四拾八文遣シ申候、
相残り候品々之内同郡宿岩村傳左衛門方江賣渡し、
是ハ權次事外持居候品物等差加イ致而下直之
直段ニ金高六兩程ニ賣切ニ相拂、其余者權次姉
賀同郡海瀬新田村房と申者方にいまた
可有之与奉存候、前書彼是偽申上候段恐入候、乙吉
江者欠落仕候後一圓對面等不仕候、
右御吟味ニ付相違不申上候、以上、

右御吟味申上候

天保七丙申年十月廿七日

好藏 爪印

田部

右好藏御紀三付申上候次第私共一同罷出承知
仕候、依之與書印形差上申候、以上

申上

湯原村

新三郎
七郎右衛門
権之丞
彦左衛門
与市
市郎右衛門
同助役
鐵藏印

右之通り也

十月廿八日

一 右田部村川除仕上為見分渡邊香吉
差遣申候、人足遣立書付持參致候、

田野口

御役所

右好藏御紀三付申上候次第私共一同罷出承知
仕候、依之與書印形差上申候、以上

申上

湯原村
名主

年寄
六右衛門
印

右之通り也、

十月廿八日 天氣

太田部村川除見分

一 太田部村川除仕上為見分渡邊香吉
差遣申候、人足遣立書付持參致候、

一 田野口村中條武左衛門小平金十へ養女差し遣し度願
申候間承届申候事

此等書目より
大原左近様御代官所當郡下海瀨村
嘉兵衛娘私養女三貫請、小平金十殿
女房三差遣申度候間此段奉願上候、何卒
御聞濟被成下置候様奉願上候、以上、
田野口村
割元
天保七丙申年十月廿八日
中條武左衛門 印

所収新帳

伊豫田小兵衛儀御勝手御用三而出府被
願之通り被仰付被下置候様奉願上候、以上、
同所
名主
土屋銀右衛門 印
十月廿九日 天氣

十月廿九日

一 伊豫田小兵衛儀御勝手御用三而出府被

田野口村中條武左衛門小平金十へ養女差し遣し度願
申候間承届申候事、

乍恐以書付奉願上候
一大原左近様御代官所當郡下海瀨村
嘉兵衛娘私養女三貫請、小平金十殿
女房三差遣申度候間此段奉願上候、何卒
御聞濟被成下置候様奉願上候、以上、
田野口村
割元

天保七丙申年十月廿八日
中條武左衛門 印
御役所様

前書武左衛門奉願上候処相違無御座候間、
願之通り被仰付被下置候様奉願上候、以上、
同所

申十月廿八日
名主
土屋銀右衛門 印

十月廿九日 天氣

伊豫田小兵衛出府仰せ付け

一 伊豫田小兵衛儀御勝手御用三而出府被

修身如之量之有誤度有誤度又同爲能
り中より重蔵召連れ申候事、且郷帳清書
申候事、御用書共同人江相渡差下し
申候事、

一 無宿好藏一件御影陣屋へ掛け合
無宿好藏申口之儀三付、御影御陣屋江掛合
書狀渡邊香吉ニ爲持差遣申候處、昼頃
罷歸リ申候事、

一 下手村々役所用米納入
御役所用米之儀拂底三付、下手村々江
先日出來次第當月之内三村々老俵ツ、
成共爲納所罷出候以前三相納候様申觸
置候所、今日村々罷出相納申候事、

一 田原徳次郎係保米多御所市川一傳旨
今曉如役本當年格別延奉身申候様ハ
米納皆爲免振成力子村々申候保米多御所

十一月朔日 快晴

一 田原徳次郎係保米多御所市川一傳旨
今曉如役本當年格別延奉身申候様ハ
米納皆爲免振成力子村々申候保米多御所

仰付、則今昼立三致出府候、尤下役阿部剛作、
御中間重蔵召連れ申候事、且郷帳清書
出來三付御用書共同人江相渡差下し
申候事、

一 無宿好藏一件御影陣屋へ掛け合
無宿好藏申口之儀三付、御影御陣屋江掛合
書狀渡邊香吉ニ爲持差遣申候處、昼頃
罷歸リ申候事、

一 下手村々役所用米納入
御役所用米之儀拂底三付、下手村々江
先日出來次第當月之内三村々老俵ツ、
成共爲納所罷出候以前三相納候様申觸
置候所、今日村々罷出相納申候事、